

公益財団法人 公害地域再生センター

## あおぞら財団

### 2012(平成24)年度 事業計画書

#### もくじ

I. 基本方針	1
II. 事業内容	2
1. 公害のない住みよい地域づくりを進める活動(地域づくり)	
2. 資料館の運営とネットワークづくり(資料館)	
3. 公害経験や地域資源を活かし、環境まちづくりの担い手育成(環境学習)	
4. 公害病患者等の健康回復や生きがいづくりを進める活動(環境保健)	
5. 日本の公害経験をいかした国際交流(国際交流)	
6. 重点事業	
III. 情報発信・提案活動・交流	11
1. 情報発信	
2. 提案活動	
3. 交流	
IV. 組織	11
1. 理事会、評議員会	
2. 事務局	
3. 会員	
4. ボランティア、アルバイト・スタッフ	
5. インターン	
6. 視察・研修の受入、講師派遣	
V. 財務・法人体制	12

## Ⅰ. 基本方針

あおぞら財団は、2011年7月に財団法人から新たに公益財団法人に組織変更を行い、9月には設立15周年を迎え、新たな発展、充実のスタートを切った。

昨年3月11日の東日本大震災と福島第1原発事故は、現代社会に大きな衝撃を与えると共に、改めて防災、減災や原子力発電へのエネルギー依存転換の必要性を鋭く問いかけた。財団も、いち早く被災地に職員を派遣し、支援拠点となった遠野市のNPO法人からの要請で被災者を送迎する車を贈呈するなど支援活動に着手し、環境フロンティア講座第4期においては、原発事故とこれからのエネルギー問題を取りあげた。防災・減災と地域での自然再生エネルギーの活用などは、環境、福祉とともに今後のまちづくりの重要な柱になるものであり、財団としても、今回の大震災と原発事故の教訓を生かした取り組みを重視していきたい。

2010年度から第4次事業計画がスタートし、そのなかで「環境フロンティア講座の開催」、「自転車を活かしたまちづくりの推進」、「あおぞらビル1階スペースの活用」、「情報発信・広報活動の充実」の4事業を重点事業として位置づけたが、あおぞらビル1階のスペースの活用に関しては、地元の方々をはじめ多くのボランティアの方々の協力を得て1階スペースを改修し、2010年12月4日、交流スペース「あおぞらイコバ」を開設し、昨年からあおぞら野菜市やジャズコンサートなど本格的な活用を行っている。また、昨年度は壁面緑化も行った。今年度は、こうしたハード面での整備を受けて地域交流スペースとして一層幅広い活用を図っていきたい。環境フロンティア講座は、昨年は、前記の通り原発事故とこれからのエネルギーのあり方を取りあげた講座を行い、述べ110名を超える参加を得た。今年度も、財団の顔としての環境講座に相応しく充実させていきたい。情報発信の充実に関しては、ホームページの改善や機関誌「りべら」の改善も行ったが、ホームページへのアクセスが飛躍的に増加しており、今後は、こうした情報発信の充実を会員拡大や事業の発展に結びつけることが求められている。

2012年度は、地域の企業と連携してのエコ・プロジェクトの推進や菜の花プロジェクトなどの地域循環型社会の取り組み、中国を中心としたアジアとの国際交流活動など、個別分野の取り組みの継続や重点事業のさらなる発展など、人と環境に優しい地域の再生を旨として、調査・研究、提言を行うとともに、住民、市民とともに地域再生、環境再生を実践していく活動を進めていきたい。

同時に、依然として続くゼロ金利の中で基本財産の有効活用が不可能となり、事業収入の減少も続き厳しい財政状況になっている。今後も厳しい財政状況が続くことが予想され、経費削減や公益法人化を契機にした寄付金の飛躍的な増加など財政改善の努力を行っていくことが必要であることから、今年度は、資金調達（ファンドレイジング）の強化を重点事業と位置づけて、寄付金、広告、事業協賛などに力を入れていきたい。

組織的には、人的資源の適正配置、特別研究員制度の活用、常務会の定期的な開催など、事業施行体制の一層の整備強化を図っていく。

## II. 事業内容

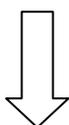
### 1. 公害のない住みよい地域づくりを進める活動（地域づくり）

#### 「地域づくり」の目指すところ



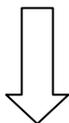
西淀川公害からの教訓をいかし、公害によって疲弊した地域の環境再生、及び、持続可能な地域社会づくりをすすめていくため、環境再生・交通まちづくりに関する調査・研究・事業などに取り組む。

#### 2011 年度時点での到達点(3 年計画からの振り返り)



- 2011 重点①西淀川交通まちづくりプロジェクトとして、東日本大震災を受けて「緊急時の避難&日常のバリアフリー」をテーマに意見交換会等を5回開催。今後も、交通・防災分野における合意形成の仕組みとして、継続的に市民が参加できる場（学習&意見交換会の継続）づくりを進める必要がある。
- 2011 重点②自転車を活かしたまちづくりは、事務局として参画している「自転車文化タウンづくりの会」を中心に、多くの市民の参加により、まちなか自転車コンクールや駐輪マップ、御堂筋サイクリックピクニックなど様々な事業を行ってきた。また、タンデム自転車に関する取り組みは「大阪でタンデム自転車を楽しむ会」の立ち上げをはじめ、急速に広がりつつある。今後は、こうした取り組みを発展させ、具体的により良く地域を変えていく事業として実施して行く必要がある。
- 2011 重点③西淀川地域における住まいと暮らしの見つめ直しは、近年、工場撤退などに伴い、宅地化が進む西淀川地域において、住まいやまちの変化を読み解きながら、「西淀川らしい環境と住まい方」を考えるGreen(Good renovation for ee (ええ) Nishiyodogawa)プロジェクトを、建築関係の方や地域の方などとともにスタート。
- 道路連絡会を年一回開催しているが、抜本的な環境改善や歌島橋交差点の横断歩道撤去問題の解決は進んでいない。
- エコドライブやアイドリングストップ給電システムの普及事業については、これまでのネットワークを活かしながら、交流イベントの開催や講習会や情報発信など、地域交通の環境負荷を減らすための取り組みとして継続している。
- 人材育成を目的とした道路環境市民塾は、記録集の出版に向けて検討してきたが、実現できず、運営体制の立て直しが課題となっている。
- 参加型アセスメント講座については実施できなかった。
- 徳島市環境リーダー養成講座については、新企画を実施することによって、新たな市民が参加し、活動の幅が広がっている。

#### 2012 年度に力を入れたいプロジェクト



- 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災を受けて、これまで財団で進めてきた環境再生・地域再生の取り組みは必要性が増すとともに、対応して行くべき課題も広がっている。
  - こうした社会的背景を受けて、財団では、より一層、環境再生・地域再生に力を入れ、自然エネルギーの活用によって原発に頼らない社会づくり、福祉・防災・産業の視点を含めた環境再生の取り組みを進めていく。
- ① 西淀川における「人にも環境にもやさしい地域交通まちづくり」の推進
  - ② 西淀川からの「環境住宅」発信プロジェクトの推進
  - ③ 西淀川における企業との連携によるエコ・プロジェクトの推進

#### 地域づくり 2012 年度の実施計画(全体)

##### 1) 地域交通まちづくりの推進

###### (1) エコドライブの普及

- トラック協会との連携の中で、エコドライブ啓発活動を継続。

## (2) 自転車を活かしたまちづくりの推進

- 財団が事務局を担っている「自転車文化タウンづくりの会」等とのネットワークを活かし、自転車を活かしたまちづくり（自転車寺子屋、駐輪マップ、お薦め通勤ルート、まちなか自転車空間コンクール、御堂筋サイクルピクニックなど）を進めていく。
- 「大阪でタンデム自転車を楽しむ会」との連携を進め、視覚障害者をはじめ誰でも自転車を楽しめる環境づくりに取り組む。
- 「あおぞらイコバ」でのタンデム自転車及び一般自転車のレンタサイクルを発展させ、自転車文化の発展とともに、事業費の獲得を進める。

## 2) 西淀川再生プロジェクト

### (1) 西淀川道路環境対策連絡会を通じた取り組み

- 大型車削減 R43 のバリアフリー化、歌島橋交差点（緑化、横断歩道のあり方）、PM2.5 総合実態調査等について、原告、弁護士と協働で取り組む。

### (2) 西淀川における「人にも環境にもやさしい地域交通まちづくり」の推進

- 「道路提言 Part6」の実現を目指して、西淀川区における福祉交通、公共交通の利用促進などを道路検討会・西淀川地域再生研究会との連携によって調査・提言活動を行い、西淀川地域での交通まちづくりを進める。
- 2010 年度の提案に沿って、自転車・公共交通やバリアフリーの視点を含め、2011 年度よりスタートした防災まちづくりと連携しながら進める。

### (3) 西淀川からの「環境住宅」発信プロジェクトの推進

- 環境再生まちづくりをめざして、西淀川から住まいと暮らしを考える環境住宅研究会（Green）の取り組みを通じ、「環境住宅」の発信を行なう。

### (4) 西淀川における企業との連携によるエコ・プロジェクトの推進

- エネルギー地産地消・省エネルギー社会をめざし、府内・市内・区内企業との連携によるエコ・プロジェクトを立ち上げる（未利用地や未利用建物へのソーラーパネル設置、工場内・周辺の緑化、エコ見本市など）

### (5) 西淀川地域におけるまちづくり活動の支援

- 多様な視点から環境再生に取り組むため、西淀川地域において、環境・防災・福祉・子ども支援などを進める団体と連携していく（地域福祉アクションプラン推進事業、西淀川子どもセンター、ECO まちネットワークよどがわなど）

### (6) 菜の花プロジェクトから始める地域循環型社会への取り組み

- 気軽にできる環境問題の取組みとして、西淀川地域での廃油回収と菜の花栽培を広める。
- 企業や町会、学校と連携をし、持続可能な廃油回収の仕組みを確立する。
- 西淀川 ESD ネットワークや回収拠点と協力し、キャンドルナイト等のイベント企画や、回収の周知を行う。

## 3) 地域で取り組む交通まちづくりの支援（人材育成、情報発信など）

### (1) 道路交通環境市民塾の記録集発行、講座の開催

- 市民塾記録集原稿をHPで公開。全国路面電車サミットへの参加を検討。

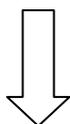
### (2) 参加型アセスメント講座の開催

### (3) 講座の企画・運営、講師・アドバイザー派遣、コンサルティング

- 徳島市環境リーダー推進事業

## 2. 資料館の運営とネットワークづくり (資料館)

### 「資料館」の目指すところ



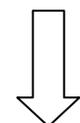
公害克服の経験を発信することで、人々の公害問題への関心を高め、二度と公害の起こらない、安心して暮らせる社会環境づくりを目指す。そのために、公害から現在を読み解き、地域史の中の一つとして捉え、そして公害を知らない人が多数になった現在において、公害を学ぶ意義を捉えなおし、発信していく。

### 2011 年度時点での到達点(3カ年計画からの振り返り)



- 三カ年計画から見て、2011 年度はボランティア育成、地域の記憶収集、企業との連携などに取り組む事を掲げた。ボランティアの育成において、スタディツアーの参加者が公害地域再生の意義を理解して活動に参加したり、インターンシップ生が資料館の資料整理業務の手伝いや展示作成作業をしたり、多くの人の協力をえることができた。地域の記憶収集は「記憶あつめ隊」を立ち上げて、地域の記憶を集めたり、スタディツアーでも地域の人たちにヒアリングを行ったりする事も出来た。また、スタディツアーで一部の被告企業との関係性をつなぎ直すことも可能となった。まだ取り掛かりの段階なので、今後の継続発展が望まれている。

### 2012 年度に力を入れたいプロジェクト



- ① 四日市・倉敷（水島）の公害資料整理、公開
- ② 西淀川地域の記憶の収集

### 資料館 2012 年度の取組み(全体)

#### 1) 「西淀川・公害と環境資料館」の日常業務の充実

- (1) 資料の保存・整理（目録の整備）
  - 未整理になっている資料を着実に整理していくために、アルバイトの体制を整え、未整理の資料を着実に整理する。
- (2) 資料館の情報提供、視察受入、展示
  - 資料館見学・研修の受け入れ実施を沢山の人に知ってもらい、公害・環境問題に関する情報提供につとめる。
  - 資料館の利用日は原則、毎週月曜日と金曜日の 10:00～17:00 と定め、スタッフおよびボランティアがレファレンスに対応する。
- (3) 資料館の運営体制の確立
  - 毎月 1 回、小田康徳館長と担当職員による資料館定例会議を継続する。定例会議では、資料館の活動全般の検討、必要な規程の策定などをおこなう。
  - 歴史研究者や資料館・博物館等の専門家からなる運営協議会を設置し、専門的な立場からのアドバイスや協力を得られるような体制を継続する。
  - 積極的に寄付集めをおこない、資料館の運営のための資金を増やす。
- (4) 広報活動（資料館だより、ウェブサイト）
  - 資料整理から得られた知見や、館の活動などを『資料館だより』（年 4 回発行 A4 版両面印刷）やホームページ、ブログ等を通じて発信する。
  - Web サイトの情報更新を頻繁に行う
- (5) 研究
  - 資料館の資料を利用する研究に協力し、公害問題の研究を進める
  - 西淀川公害患者と家族の会が進める西淀川公害反対運動の研究に協力する。

## (6) 西淀川地域での活動

- 西淀川の地域資料館を目指し、地域の情報収集および発信、交流の場となるように地域と連携する。
- 展示やイベント開催を通じて、西淀川図書館と連携する。

## 2) 公害地域の現在を知る、情報を集める、伝える

### (1) 公害地域の今を伝えるスタディツアー

- 富山・新潟・大阪で実施した経験をもとに、他地域で実施できるように公害地域へ働きかける。
- 富山・新潟・大阪で実施した経験をもとに、本を刊行できるように働きかける。

### (2) 情報発信

- 環境再生保全機構のホームページで 2010 年度に作成した「記録で見る大気汚染と裁判」の情報を更新する。四日市と倉敷（水島）の公害資料整理に関する情報についても可能な部分から同ホームページで公開していく。

## 3) 西淀川地域の記録の収集

### (1) 語り合う場をつくる

- 地域ごとにカフェを開き、語り合う場をつくり、西淀川の地域の人たちから、公害や地域の記憶をあつめる。

### (2) 発信する

- 地域で集めた情報を基に、ニュースレターとホームページを作り、地域へ広げていく。

### (3) インタープリター養成

- 地域の情報を地域の人が伝えら得る様に、インタープリター講座を開催し、地域の語り部を養成する。

## 4) ネットワークづくり

### (1) 他の資料所蔵機関等との連携

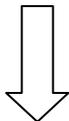
- 桃山学院大学の地域資料研究会に協力して、大阪の歴史史料の活用促進を行う。
- 公害問題資料を所蔵する各地の団体との連携をはじめ、西淀川図書館や大阪人権博物館、大阪歴史博物館など公の機関との情報交換など、さまざまな団体や機関との連携を引き続き築いていく。
- 上記 2) で述べた調査活動を通じて、調査地域との連携を深める

### 3. 公害の経験や地域資源を活かし、環境まちづくりの担い手育成(環境学習)

#### 「環境学習」の目指すところ

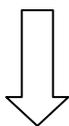
人、自然、歴史、文化等、地域の資源を教材とし、公害のないまちづくりを実践する担い手の育成に取り組む。

様々な主体とネットワークを構築しながら、教材作成、講座やイベントの開催、自然観察や調査等を通じ、公害・環境問題を学び、持続可能な社会づくりにむけて行動する場をつくる。



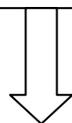
#### 2011 年度時点での到達点(3 カ年計画からの振り返り)

- 『①西淀川公害の検証と環境学習プログラムの開発・普及』は、新たな活動ができていない。今まで実施した活動を検証しながら、西淀川で学ぶべき事項とメニューを整理していきたい。
- 『②人づくりのための講座開催』については、他団体と協力をしながら、西淀川で自然を学ぶ講座は定着をしている。新たな参加者を募ること、運営をする人材の育成が課題である。
- 『③西淀川区域を中心にした環境学習活動の実践・支援』では、西淀川菜の花プロジェクトによる一般市民の廃油回収をすすめてきた。佃連合振興町会での回収の実践もすすんだ為、あおぞら財団「環境学習」の分野ではなく「地域づくり」分野へ移動した。
- 2011 年度、新たな西淀川区域の活動も生まれつつある。西淀川区が主催する「西淀川環境保全会議」への委員としての参加、他地域と連携しての淀川清掃活動の主催、中島大水道のマップづくりなどである。2012 年度これらの新しい芽を育て、形にしていきたい。
- 今まで取組んでいなかった就学前の子供を対象にした活動を、2012 年度は取組む。幼稚園教諭や保育士、保護者など、あおぞら財団の新たなネットワークをつくりたい。



#### 2012 年度に力を入れたいプロジェクト

- ① 西淀川でとりくむ公害環境学習
- ② 西淀川の環境まちづくりの担い手を育成



#### 環境学習 2012 年度の取組み(全体)

##### 1) 学校と協力し西淀川の公害・環境学習

###### (1) 西淀川 ESD ネットワークの継続・拡大

- 新たに参加団体を募りながら、西淀川 ESD 全体会議の開催を継続する。
- 今まで西淀川で実施された環境教育メニューを関係者と一緒に共有しながら、西淀川での環境教育としてどのような学びが必要なのかを議論する。また、実践活動を広げていくにはどうしたら良いか議論の場をつくる。

###### (2) 西淀川公害のプログラムづくり

- 現場の先生など専門家と協力をしながら、今までの蓄積をいかし西淀川公害をどのように伝えていくか、授業などで実践をしながら検討する。

###### (3) 学校ですすめる環境学習を支援

- 西淀川高校あおぞらプランを継続する。
- 財団で取り組んできた公害・環境学習のプログラムを、学校や地域で活用しやすいよう例を示す等して整理する。連携して取り組む先を増やす為の広報活動をする。
- 学校での環境学習の取り組みの相談に応じ、授業を実施する。

## 2) 西淀川の環境まちづくりの担い手を育成

### (1) 小学生ととりくむ、自然・環境調査

- 『子どもの参画べんきょう会』『にしよどがわこどもエコクラブ』の事務局として小学生を対象に区内の自然・環境調査イベント（春：タンポポ調べ、夏：セミのぬけがら調べ、秋：ハゼ釣り大会、冬：空気の汚れ調べ）の企画・運営をする。
- 実施した自然・調査の結果を踏まえ、子どもたちが西淀川の環境をよくするためにはどうしたら良いのか考え、提案づくりの場をつくる。
- にしよどがわこどもエコクラブ組織強化し、イベント運営、参加者、双方の参加人数を増やす。

### (2) 都市部の自然体験を通じた未就学児の環境教育モデルづくり

- 地域の幼稚園や保育園と連携をし、就学前の子ども対象の自然体験を通じた環境教育の場を模索する。
- 『森のようちえん』の取り組みに学びながら、緑地の少ない都市部での実践モデルづくりに取り組む。

### (3) 西淀川の自然・歴史を活かした環境学習の場づくり

- 『緑陰道路サロン世話人会』の事務局として、大野川緑陰道路の歴史・自然の学習イベントを開催する。
- 有志を募り江戸時代の農業用排水路『中島大水道』のマップを作成する。
- 『日本野鳥の会大阪支部』と共催し、矢倉海岸定例探鳥会（毎月第一土曜日）の実施を継続する。
- 『西淀川区河川等環境保全会議』へ委員として参加する。西淀川区役所や参加団体と情報交流を行い、協働しての新たな活動を模索する。
- 淀川河川敷ゴミ拾いを企画し、気軽に区民が参加できる環境ボランティアの場をつくる。淀川流域の一斉清掃と連動して行う。

## 4) 交通環境学習の推進

### (1) フードマイレージ教材の普及

- 従来の教材データの更新や、フードマイレージ教材のねらいや授業に取り入れるにあたってのガイドとなるような本の作成など、現場でより使いやすいものとなるよう、フードマイレージ教材化研究会とも検討しすすめる。
- 従来の教材に加え、新しく作成した展示パネルや紙芝居を、より多くの方に使用してもらうためホームページの情報更新など、広報に力を入れる。

### (2) 今までの蓄積をいかし交通環境学習プログラム実践

- SCPブロックや、チャリンコチャンピオン、自転車マップづくりなど、今まで作製してきた交通環境学習プログラムを、イベントや講座などで活用する。

## 5) 近畿圏・環境学習ネットワークづくり

### (1) 近畿圏の環境学習の取組を活発にする

- 近畿圏の環境系市民活動団体と交流の場に参加し、情報交換をしながら、新たな活動を模索する。

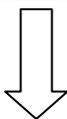
### (2) 『生物多様性』近畿圏の提案・活動の場づくり

- 『生物多様性』の世界的な動向を学びながら、近畿圏での愛知目標達成に向けた具体的な実践行動、提案をつくる。
- 『生物多様性イベント』を委員会形式で、企画運営の参加者を募りながら、学習の場をつくる。

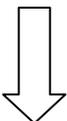
## 4. 公害病患者等の健康回復や生きがいつくりを進める活動（環境保健）

### 「環境保健」の目指すところ

公害患者の健康回復、生きがいつくりに寄与するとともに、ぜん息患者の医療費救済制度の創設をめざす



### 2011 年度時点での到達点(3 年計画からの振り返り)



- 3 年計画から見て、2011 年度は、西淀川区における呼吸リハビリの提供について検討会、患者向け、及び、医療従事者向けの講習会を開催し、今後の地域連携における足がかりができた。また、地域のぜん息患者との懇談会も開催し、一人で病気と闘う患者さんの交流の場も作り始めることが出来た。
- 一方で、呼吸リハビリの普及に関する事業費獲得には失敗している。
- 大阪府における医療費助成を求める活動は、十分に地域の団体と連携して取組むものにはなっておらず、今後意識的に取組む必要がある。

### 2012 年度に力を入れたいプロジェクト



- ① 医療機関での実施に向けた後方支援情報発信・活動交流
- ② 未認定ぜん息患者の交流支援と救済制度の確立

### 環境保健 2012 年度の取組み(全体)

#### 1) 高齢認定患者および呼吸器疾病患者への呼吸リハビリテーションの実施促進・サポート

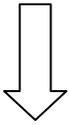
- 2012 年度は、2011 年度までに検証、普及・啓発した「呼吸リハビリプログラム」を、特に西淀川区において普及するとともに、病診連携の仕組みづくりを進める。
  - ・ 行政、医師会、地域医療機関の参加による検討会の開催
  - ・ 患者向け・医療従事者向け講習会の開催
  - ・ パンフレットやニュースの配布
  - ・ 医療機関での実施にむけた後方支援
- あおぞらプロジェクト大阪の活動とも連携し、地域の未認定患者を含めたぜん息患者が支え励ましあえる場をつくり、「呼吸リハビリプログラム」などに加え、病気に立ち向かう患者の自己管理を支援する取り組みを行う。

#### 2) 「あおぞらプロジェクト大阪」との連携

- 未認定ぜん息患者の救済制度の確立を行政に求める「あおぞらプロジェクト大阪」との連携を進めていく。

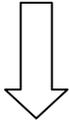
## 5. 日本の公害経験をいかした国際交流（国際交流）

### 「国際交流」の目指すところ



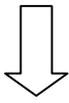
西淀川公害からの教訓をいかし、我が国の公害経験を世界、とりわけ東アジア地域の多くの人たちに伝え、交流することで、新たな被害を未然に防ぎ、直面している公害・環境問題の解決に向けた取り組みをともに進める。

### 2011 年度時点での到達点(3カ年計画からの振り返り)



- 2011 年度は、中国環境 NGO メンバーを日本に迎え、日本の環境施策や NGO との交流などを行うとともに、シンポジウムにおいて中国の環境についての現状を報告・意見交換していただいた。
- 今後は、これらのつながりを発展・継続していくことが課題である。公害問題に関する情報発信や研修事業、環境に関する日中協働事業など、資料館や人的ネットワーク、国内での取り組みを活かした財団ならではの事業を確立する必要がある。

### 2012 年度に力を入れたいプロジェクト



#### ① アジアを中心とした環境 NGO 等との活動交流

- 中国環境 NGO と協働し、日中両国の環境改善につながる協働事業の立ち上げを行なう。これまでの実績を活かし、各種補助事業などを活用することで、今後も継続できる国際交流事業の体制づくりを進める。

### 国際交流 2012 年度の取組み(全体)

#### 1) 日本の公害経験資料の翻訳、及び、情報発信

##### (1) 翻訳・情報発信

- 西淀川大気汚染公害をはじめ、国内の公害経験についての翻訳、情報発信。
- 環境問題に関する情報を多言語（日本語、韓国語、中国語）で紹介している「ENVIROASIA（日中韓3カ国環境情報サイト）」へ、日本の公害経験や環境問題に関する情報の投稿を継続し、情報交換を進める。

##### (2) 基金創設のPRと寄付協力の呼びかけ

- 朝日新聞社「明日への環境賞」受賞（2007年4月）をもとに、設立した「国際翻訳基金」の存在を社会的にアピールするとともに、さらなる寄付の協力を呼びかける。

#### 2) アジアを中心とした環境 NGO 等との活動交流

- (1) 中国環境 NGO・被害者との交流、中国の公害被害地域への視察
- (2) 韓国をはじめとした東アジア環境 NGO との交流
- (3) 海外からの視察受け入れ

#### 3) 日本における日中環境問題についての交流会の開催

- (1) 日中環境問題サロンの開催
- (2) 日中学生セミナーの開催

#### 4) 中国環境 NGO と連携した研修事業の実施

- JICA 事業などを通じて、中国環境 NGO と連携し、日本の公害経験を伝える研修事業を実施する。

#### 5) 公害・環境問題に関する国際協働事業の実施

- 海外 NGO との協働による啓発資料の作成、HP を用いた情報発信など
- 日中両国の環境改善につながる環境 NGO 協働事業の実施

## **6. 重点事業**

- 2009年度より、財団10年の蓄積と弱点、財団の使命という視点からアプローチした将来構想に基づく重点プロジェクト（環境フロンティア講座、自転車を活かしたまちづくり、あおぞらビル1階交流拠点化、情報発信）を3年間実施してきた。
- 取り組みにあたっては、5分野と連携しつつ、特別研究員制度の実施、大学研究室との共同等を進め、多様なスタッフの関わりの中での事業展開を進め、一定の成果を生み出してきた。
- こうした実績を踏まえ、2012年度から新たに重点プロジェクトを位置づける。

### **1) 環境フロンティア講座の開催**

- 本講座は、人づくり・人材育成の中心的な取り組みとして、財団の人的つながりを生かした財団独自の質の高い、濃い内容の環境指導者育成を目指し2009年度より開講している。
- 2011年度4～6月期には、3月11日に発生した東日本大震災を受け、第4期「東日本大震災—原発事故とこれからのエネルギー問題」を開催し、のべ116人が参加した。
- 2012年度は、第5～8期を開催予定。東日本大震災を受けて、エネルギー問題に関する講座は継続的に開催していく、関西から東北へのエコツアーなどを実施する。

### **2) 地域交流スペース「あおぞらイコバ」の活用**

- 患者会と連携しながら、地域住民が気軽に立ち寄ることができる場づくりを進めてきた。
- 定期的な企画展やイベントの開催、ホームページや案内チラシの発行等情報発信によって、認知度を高め、定期利用・展示利用者増を目指す。
- また、東日本大震災支援として、情報発信や寄付や販売などの機会を継続的に生み出して行く。

### **3) 資金調達（ファンドレイジング）の強化**

- 財団事業費の獲得のため、新たに資金調達（ファンドレイジング）の手立てを確立する（企業からの寄付金集め、屋上看板、リベラ広告、事務所スペース貸し業務、事業協賛、情報発信の強化など）

### **4) 東日本大震災支援の取り組み**

- 2011年度に実施した東北支援のつながりを活かして、現地NPO等との連携・情報共有を図りつつ、引き続き、被災地の実情に沿った支援を行なって行く（BDF車「あおぞら号」を通じた連携、イコバでの東北産の物品販売、東北支援イベントの開催、関西への避難者支援など）

### III. 情報発信・提案活動・交流

#### 1. 情報発信

機関誌「りべら」の季刊発行、年報の発行、読みやすく親しみやすい紙面づくりに努める。ホームページはより利用しやすいサイトをめざし、Facebook や twitter を活用して情報の更新を進める。また、情報を効果的に伝えていくためにメール通信「あおぞらエクスプレス」を活用する。年間 1,000 件増加を目標に配信先を増やす。また、新しく関わりの出来た人にあおぞらエクスプレスを送って、賛助会員への登録をお願いする。毎月初めに定期配信している「月刊あおぞら」はイベントのお知らせやあおぞらイコバの利用状況等財団の今が見えるように充実させていく。ENVIROASIA への投稿によるアジアへの情報発信をする。

#### 2. 提案活動

各種計画へのパブリックコメントや選挙時の公開質問状提出などの提案活動、様々な公害・環境問題に関する情報、財団活動に関する情報の発信を進めていく。

#### 3. 交流

各事業に個別に協力を得ている研究者のネットワーク化をはかり、財団が市民と研究者団体をつなぐパイプ役を果たせるような仕組みづくりをめざす。6 月の公害被害者総行動デーへの協力をはじめ各地の公害被害者団体や、地域の環境再生に取り組む団体や市民との交流をすすめる。

### IV. 組織

#### 1. 理事会、評議員会

理事長が事業と活動を担う事務局を統括し、円滑な事業運営をはかるとともに、理事、評議員が持っている専門性や技量を活かして活動が展開できるようにする。

#### 2. 事務局（研究員・特別研究員）

運営体制の充実のため、理事長・理事・事務局長等が参加する常務会を定期的開催し、全体方針を検討する。毎週 1 回の事務局会議では、事務局長（任期 2 年、研究員より選出）を中心に、事務局全体で情報を共有し、事業の進捗状況や今後の事業展開、重要事項の素案づくり、業務体制に関する調整、組織運営のあり方などを全員で討議する。

財団業務は拡がりを見せつつある中、2012 年度は 5 名の研究員（正職員）体制でスタートする。また、財団活動をより発展させていくために特別研究員制度を 2009 年度より設けており、2012 年度も継続（2 名）する。

#### 3. 会員

横ばい状態にある賛助会員数については、情報発信や各種イベント・事業等への参加・協力者への呼びかけを進め、会員増加に力をいれていく（会員数：157 個人・団体／2012 年 2 月末）。また 2008 年よりスタートした、会員同士の交流や、会員の声を直接聞く場としての「会員のつどい（会員総会）」を継続する。

## 4. ボランティア、アルバイト・スタッフ

ボランティアについては、気軽に参加してもらえよう設けた「ボランティアの日（毎月第一金曜）」を継続・充実する。また、イベント実施などの際は企画内容に興味のありそうな人にボランティア参加の呼びかけを行う。2012年度は、のべ54人のボランティアに、財団で仕事をして頂いた(2月末現在)。

研究員の事業をサポートするアルバイト・スタッフについては、年々、増加し、活動を進める上で大きな力となっているとともに、既存のルールだけでは対応できない運営上の課題（研究員のマネージメント能力の向上、業務内容の明確化など）が上がってきている。

財団の趣旨に賛同し、活動をサポートしていただいている賛助会員・ボランティア・アルバイトスタッフのメンバーが研究員との役割分担の中で、快く活動に取り組めるよう、マネージメント、情報発信、交流などの充実を図っていく。

## 5. インターン

2011年度は16名のインターン生を受け入れた。希望者が多かったこともあり受け入れ人数などの取り決めを作成した。

学生の人材育成に寄与することで財団活動への理解が社会的に広がっていくことをめざす。また、インターン期間終了後も財団とのかかわりを継続できるような働きかけを積極的におこなっていく。

## 6. 視察・研修の受入、講師派遣

環境省職員研修、JICA（国際協力機構）研修、韓国司法修習生や大学ゼミなどからの視察・研修の受入を引き続きおこなっていく。今後もプログラムの充実化を図りながら的確な情報発信をおこなっていく。

また、環境再生・地域再生の取組み、環境学習、NPO、ボランティアなどに関する授業や講演会、講座等への講師派遣をおこなう。

## V. 財務・法人体制

2012年度は基金の運用収入・受託金等の減少が予測され、厳しい財務状況となっており、既存業務の拡充、新たな業務開拓を進めていく必要がある。

2011年7月から、公益法人制度の改革にともなって、新制度における公益財団法人へ移行した。公益財団法人は寄附優遇の対象となる「特定公益増進法人」に該当し、寄附者には税控除が適用されることから、より一層、寄附金の呼びかけを積極的におこなう。